

日本共産党

あきば 繁の市議会報告

2023年1月 N.O. 34 発行者 市議会議員 あきば 繁 茨城県古河市 茶屋新田 71-4 Tel (48) 2139



コロナ対策、国・県まかせ！ 針谷市長の民活・ビジョンのまちづくり手法、いのち・くらしは民間へ、ハコモノ・開発は、急ぎなのか

公立保育所の統廃合、給食の自校調理民間委託、福祉センター廃止、窓口の民営化で職員削減。工業団地開発と文化施設建設は、着々推進。 ※ 学校統廃合も、非公開で基準づくり…

(仮称)古河市「新公会堂」の整備報告書

昨年9月、古河市議会第3回定例会終了後の全員協議会に、古河市文化施設整備検討委員会の報告書が、19ページにわたって提出されました。すでに第1回～第7回の会議が開催されています。その内容は、以下……

市民不在で、文化施設建設に向けた計画を推進！

<検討委員会メンバー>

委員長 副市长 副委員長 企画政策部長 委員 総務・財政・市民・福祉・健康推進・産業・都市建設・教育部長と議会事務局長で構成され、庁内検討委員会で新公会堂の整備に向けたビジョンを整理していく。その内容は、

< 検討内容 >

(1) 新公会堂の必要性 (2) 新公会堂の目指す姿 <建設エリア候補地の選定> (1) 候補地選定の経過 ①候補地選定の視点 ②選定の経過及び結果 今後は、敷地面積、法的制限など検討。

建設ありきで、コンサル(民間)に基本構想・計画も丸投げ！

さて、文化施設整備推進事業について、「(仮称)古河市新公会堂の整備に向けた検討報告書に基づき、現在建設候補地、施設の規模・機能を盛り込んだ基本構想・基本計画策定の準備を進めています。

<基本構想・計画策定業務の公募> ○期間 締結日～R7年3月31日迄 ○内容 基本調査業務、基本構想・計画策定支援業務、民間活力導入調査。 ○提案限度額 44,000,000円 <契約締結> 令和5年4月以降

新古河市水道ビジョン

<概要> 国の水道ビジョンに基づき、計画的に事業を進めてきたが、人口減少や老朽化に伴う水道施設の更新、災害等への対応など環境が変化している。

この様な中、R4年茨城県が水道ビジョンを発表、その計画に参加の方向で検討。

R6年南摩ダム完成後の費用負担に加え、新たに県の”水源開発事業に参画”で、さらに負担増！

<思川水源開発費>

Table with 2 columns: 区分, 古河市負担金. Rows: 総事業費 1.850億円 => 86.3億円, 周辺整備費 153.4億円 => 13.5億円, 計 2003.4億円 => 99.8億円

<取り組む方策>として、南摩ダム事業の完成まで参画(周辺整備費を支払う) 完成後は、水利

権費用負担が発生する。この財源を確保するとしているが、水道料金の値上げにつながることは確実。

さらに、茨城県の水源開発に参加すれば、県内で4番目に安い古河市の水道料金が、隣町並みになる懸念 ※古河市の水道料金 3.234円 八千代町 5.445円 結城市 4.730円

# 市の貯めこみ金47億円で、 くらし・福祉の充実を！

R3年度、決算時



男女ともトイレが使用停止！  
964万円で、使用可能



リピーター多い、天然温泉

### <老人福祉法>

目的=老人に対し、その心身の健康の保持、及び生活の安定のために必要な措置を講じ、老人の福祉を図ることを目的とする。  
 理念=老人は、多年にわたり社会に寄与した者として、敬愛され生きがいの持てる健全で安らかな生活を保障される。

## 願いは、誰でも利用できる”新・健康福祉センター”の建設！

「施設運営の維持費がかかる」というが、誰でも利用できる「新・健康福祉センター」の建設が、近隣の民間施設や近隣の施設も使うことができ、料金も安い。

**問** 市長、3人に一人が高齢者になるのに、「非常に冷たい」答弁だ。

「市の計画に、」存続を求める署名」が、一か月で、2800名を超え、議長に出されている。

**答弁 針谷市長**  
「老朽化したものを直すか検討し、ハードからソフトに転換した。施設を維持すれば金がかかる」「入浴であれば、民間にもある施設を利用していたきたい」

トイレの浄化槽が壊れたまま、大広間は、物置状態、湯上りに、休むこともできない施設でいいのか

「入浴は、市内の民間施設や近隣市町の施設が、安く使える」

非常に「冷たい」針谷市長の答弁

「古河市老人福祉センターの存続を求める」署名  
一か月足らずで、二八〇〇名を突破！議会は採択先のぼし

「古河市老人福祉センターの存続を求める」署名